

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭)  
／黒川 衣代

## ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

## 1. 目標・計画

- ①テーマは食生活と家族関係に関する研究である。「家族」の視点からの食育に関する調査研究」という研究課題名で申請していたが採択されなかった。研究課題の学術的重要性・妥当性の評価は、採択課題の平均点と大差がなかったため、それ以外の評定要素について再検討する。独創的な切り口を考え、テーマに反映させるようにする。
- ②テーマに関連した論文を完成させて投稿し、できるだけ申請書類に反映できるようにする。
- ③外部資金獲得のため、研究分担者として申請する。

## 2. 点検・評価

- ①2012年度、科学研究2件(厚生労働省科学研究(代表:新潟大学 高橋桂子教授)、科研費研究(代表:福山市立大学 正保正恵教授))の研究分担者となっており、研究の責任を遂行するのは、考えていたより大変なことであった。2件とも来年度継続であり、研究の質を高めながら成果を上げるため、これ以上内容の異なる研究に着手することを断念し公募申請はしなかった。
- ②食生活と家族に関する論文「アメリカの子育て世代における食事マナーの伝達」が、日本家政学会誌第63巻5号に掲載された。食生活と家族に関する研究から、学会発表を3件行った。詳しくは2. 研究に記載した。発表を論文にし、科研申請につなげたい。
- ③2013年度も厚生労働省科学研究(代表:新潟大学 高橋桂子教授)、科研費研究(代表:福山市立大学 正保正恵教授)の分担者となることになっている。

## I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

## 1. 目標・計画

- ①平成23年度大学院後期入試に向けて神戸松蔭女子学院大学を訪問した。その時に学部の3年次生の参加もあったので、平成24年度大学院前期入試に向けて再訪問する。これに関しては平成24年度学生募集活動に係る行動計画書を提出済みである。
- ②①以外の大学を訪問する。具体的には、兵庫県立大学、ノートルダム清心女子大学、広島女学院大学が候補である。
- ③大学院パンフレット、学生募集要項を可能な限り、配布、郵送する。

## 2. 点検・評価

- ①平成24年度大学院前期入試に向けて、神戸松蔭女子学院大学を訪問した。
- ②ノートルダム清心女子大学を訪問した。兵庫県立大学は先方の都合で訪問できなかったが、関西福祉大学を訪問し事務局長の角田哲夫氏、社会福祉学部の井上寿美先生に本学の大学院プログラム(長期履修プログラムを含む)について説明し、来年度の受験を勧めて下さるよう依頼した。
- ③大学院パンフレット、学生募集要項を家庭コースとして県内公立学校に郵送したことに加えて、個人的に面識のある大学教授に配布、郵送した。ゼミの卒業生にも院受験を勧めた。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ①授業の欠席が重なってくる学生に、細やかな教育支援を行う。
- ②学生が就職活動に生かせるよう、礼儀マナーや言葉遣いについて随時、指導していく。
- ③進路や悩みの相談ごとがある学生には随時応じる。

#### 2. 点検・評価

- ①後期の授業「保育学」で欠席が重なった学生に対し、研究室で話を聴いて支援した。その後は欠席がなくなり無事に単位を修得した。
- ②授業を通して、礼儀マナーや言葉遣いについて、学校教員になることに関連させて注意を喚起した。その他、一朝一夕には改善できないが教員採用試験においては重要と考えられる4点、「字のきれいさ」「笑顔(口角を上げる)」「発声」「姿勢」に対し、1年次、2年次の時から取り組むよう促した。
- ③長期履修生1年生の修論のテーマの相談にのった。長期履修生1年生1名がゼミの所属となった。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①学会誌に論文を少なくとも1本は投稿できるように研究を進める。
- ②少なくとも1回は学会で発表をする。
- ③研究助成の公募に申請し、学外資金を得るよう努力する。

#### 2. 点検・評価

- ①食生活と家族に関する論文「アメリカの子育て世代における食事マナーの伝達」が、日本家政学会誌第63巻5号に掲載された。
- ②日本家政学会(タイトル:「小学校5, 6年生の夕食時の会話の楽しさー食事状況, および食事観との関連ー」)、国際家政学会(Title: "Dietary behavior among young adults in Japan: in relation to family-meal experiences in childhood"; Title: How are table manners passed down from parents to children within Japanese families during the child-rearing stage?")において研究発表をした。
- ③科学研究2件(厚生労働省科学研究(代表:新潟大学 高橋桂子教授)、科研費研究(代表:福山市立大学 正保正恵教授))の研究分担者となっており、2件とも来年度継続である。研究の質を高めながら成果を上げるため、これ以上内容の異なる研究に着手することを断念し公募申請はしなかった。しかし、科学研究の分担継続が決定しているので外部資金は得られる。
- ④上記以外の研究成果として、部分執筆した中学校教科書「技術・家庭科」(家庭分野)の教科書と教師用指導書内容解説書が4月に発行された。また、2001年発行の共著『子どもと出会うあなたへ』が重刷され5刷となった。
- ⑤学会関係では、家政学会家政教育部会企画「予防的観点からの家族問題へのアプローチ」において、また家政教育部会セミナー「新しい個人・家族支援のかたち」においても講師を務めた。さらに、日本家政学会家族関係学部会、および日本食育学会の査読委員を務めた。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ①学内の担当委員会、教授会等に出席し、職務を遂行する。
- ②上記の他に委員等の依頼があれば、引き受ける。

### 2. 点検・評価

- ①学部教務委員会委員、実地教育専門部会委員となり、職務を遂行した。
- ②年度途中加わった委員等として、大学授業等体験活動検討専門部会委員ならびに主査、第5回中日教師教育学術研究会準備委員会委員、大学機関別認証評価WG委員、生活・健康系コース(家庭)家庭科教育学担当教員選考委員会主査、学部推薦入学Ⅱ型入学者選抜試験(小論文)問題作成者(責任者)を引き受け、職務を遂行した。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①附属校との授業実践研究や附属校で行われる研究大会に、積極的に関わり参加する。
- ②教育支援アドバイザー講師や行政の委員会委員の要請があれば積極的に引き受ける。また、地域社会との交流・連携の機会があれば積極的に行う。
- ③留学生、外国人研究者の希望者を積極的に受け入れる。

### 2. 点検・評価

- ①附属中学校での研究大会、教育実習の附属中学校での評価授業に参加した。また、附属中と連携して行っているフィールド研究の授業実践の指導を担当している。
- ②教育支援講師・アドバイザー等派遣事業、鳴門市「生涯学習まちづくり出前講座」、徳島県まなびのひろばに登録している。  
2012年度の教員免許更新講習の講師を務めた。また、後期「保育学」の授業において、高島にあるいずみ保育園を訪問し保育実習を行い子ども達と交流した。
- ③本学の留学生用の開設授業科目「日本の教育と文化」のなかで「日本の家族」を担当し、英語で授業を行った。9月に韓国京仁教育大学校を訪問して附属小学校の授業参観をし、生活科学科の教員と学術交流をおこなった。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科教員資格審査においてD合の判定を得た。生活・健康系教育連合講座、家庭経営学分野においては、この分野が2013年度に設置されて以来構成4大学ではじめての資格教員となった。